
1 章 公園等

(1) 現状や課題に関する基本認識

都市公園やその他の公園に設置されている公共施設は、1980 年代から 2000 年代に建設されたものがほとんどを占めており、1990 年代にピークがあります。施設ではトイレ棟が最も多く、その他、東屋や管理棟などとなっています。

(2) 管理に関する基本的な考え方

公園施設のうち、トイレ棟は公園利用に欠かせない施設であることから、地元の協力を得つつ、適切な維持管理と更新を行うものとします。

その他、東屋や休憩所などの施設は公園利用の実態や必要性を踏まえ、更新の有無について公園個別に判断を行います。

また、公園そのものの廃止を検討する際は、これらの公園施設管理を地元で依頼できるか協議のうえ判断をします。

なお、都市公園については、策定済みの公園施設長寿命化計画に沿って長寿命化を図ります。

(3) 施設評価（1次評価）および方向性

1次評価においては、全 84 施設中 43 施設 78 棟が対象となり、そのうち 29 棟が「維持」、4 棟が「改善」、16 棟が「改廃」、2 棟が「民間譲渡の可能性の検討」の方向性となります。

(全 84 施設中 41 施設は土地のみで対象外、対象 78 棟のうち 25 棟が未提出、2 棟が未記入)

2 章 住宅等

(1) 現状や課題に関する基本認識

市では 1950 年代から住宅等の整備を開始し、主に 1970 年代以降 2000 年代までの間が最も整備量が多い時期となっています。古いものでは、1956（昭和 31）年の開小路住宅（佐和田）や 1958（昭和 33）年の中高野住宅（両津）などが挙げられます。

住宅等の公共施設は、そのほとんどが木造住宅であることから、耐用年数が 22 年（公営住宅は 30 年）と短く、更新時期を既に迎えたものが多く見受けられます。

(2) 管理に関する基本的な考え方

公営住宅の更新については、これまでの利用実績や今後の利用見込み、市民要望等を踏まえて判断するものとし、必要に応じて建替えや統廃合の検討を進め、施設数の適正化を図ります。

なお、公営住宅については、市営住宅長寿命化計画に沿って長寿命化および施設数の適正化を図ります。

(3) 施設評価（1 次評価）および方向性

1 次評価においては、全 94 施設 473 棟が対象となり、そのうち 15 棟が「維持」、18 棟が「改善」、8 棟が「改廃」、0 棟が「民間譲渡の可能性の検討」の方向性となります。

（対象 473 棟のうち 432 棟は佐渡市市営住宅長寿命化計画の対象となるため記入不要）

3章 民生関連施設

(1) 現状や課題に関する基本認識

児童福祉施設では、1971（昭和 46）年の河崎保育園以降、各地域に整備が進められてきました。その後、市民ニーズの多様化等により、2000 年代になると、地域子育て支援センターや児童クラブ施設が各地域に設けられています。

また、老人福祉施設、障がい福祉施設及び保養施設は、1978（昭和 53）年のときわ壮以降、2000 年代前半にかけて整備が進められました。

(2) 管理に関する基本的な考え方

保育園は、佐渡市保育園・小学校・中学校統廃合計画及び佐渡市将来ビジョンに基づく集中改革プランにより統廃合を進めてきました。今後も利用者の推移を把握しながら、施設の集約化や統廃合を図り、適正量の確保を進めます。

老人福祉施設については、今後の介護需要等を把握し、他の公共施設との併設や民間譲渡、廃止等も視野に入れながら、計画的な管理に努めます。

4 章 環境衛生施設

(1) 現状や課題に関する基本認識

火葬場などの保健衛生施設やクリーンセンターなどの清掃施設の多くは、1990 年代に更新、整備されています。市で最も古い保健衛生施設は、1966（昭和 41）年建設の北田野浦火葬場でしたが、耐用年数 （50 年）の経過により 2016（平成 28）年に廃止しています。一方、清掃施設は、佐渡クリーンセンターが 1998（平成 10）年に稼働を開始したほかは、比較的近年に整備された施設です。

(2) 管理に関する基本的な考え方

保健衛生施設については、施設の老朽化や市内の稼働状況等をふまえ、施設の集約化を図るものとします。

清掃施設については、環境排出基準を順守するため、設備の更新を随時図るとともに、廃棄物処理施設長寿命化計画に基づき、予防保全的管理を行い、施設の維持に努めます。

5 章 診療施設

(1) 現状や課題に関する基本認識

市内には2つの病院と2つの診療所があります。このうち最も古いのは1963(昭和38)年に整備された新穂田野沢診療所ですが、2017(平成29)年に廃止されています。その他、1980(昭和55)年には両津病院、1984(昭和59)年には相川病院と赤泊診療所、1992(平成4)年には松ヶ崎診療所が整備されました。

(2) 管理に関する基本的な考え方

市で最も規模の大きい両津病院については、新両津病院基本計画により2019年より基本設計期間に入り、2022年より25カ月の工期を経て2024年度に新たな病院として開院予定となっています。その他の病院、診療所については、施設更新の時期を見通し、医療体制全体の課題の中から整備のあり方を検討します。

6 章 産業関連施設

(1) 現状や課題に関する基本認識

産業関連施設は、農業施設、水産施設、商工施設、観光施設に区分されます。農業施設では 1972（昭和 47）年整備の青木山牧場管理舎や 1973（昭和 48）年整備の肥育センターなど、肥育に関する施設の老朽化が進行しています。

水産施設では、1982（昭和 57）年から整備着手された佐渡市栽培漁業センターと 2003（平成 15）年に整備された佐渡海洋深層水利活用私設の 2 施設があります。いずれも整備年度から推計すると、施設そのものより施設機能を構成する各種設備類の更新に大きなコストが掛かる傾向にあると考えられます。

商工施設では、両津地域活性化センター作業場と佐渡海洋深層水利活用施設のうち分水施設が該当します。

観光施設では、海水浴場やキャンプ場に関連する公共施設が多くを占めていますが、いずれも小規模なものです。また、2014（平成 26）年には、佐渡インフォメーションセンター「あいぽーと佐渡」が設置されました。

(2) 管理に関する基本的な考え方

産業関連施設は、本来民間でのサービス提供が可能であるなど、行政が保有する必要性が他の施設に比べて低いと考えられます。これらの施設は原則として更新は行わず、点検・民間譲渡を基本的な考え方として整理し、総量縮減を図ります。

7章 会館等

(1) 現状や課題に関する基本認識

会館等では、1972（昭和 47）年に整備された小木地区公民館・総合センター、1974（昭和 49）年の畑野就業改善センター、両津文化会館、佐渡中央会館離党開発センター、佐渡中央会館圏民センター、金井コミュニティセンターなど、1,000 m²を超える施設が 1970 年代に揃って建設されました。その後 1980 年代以降は、各地域にコミュニティセンターや活性化センターが相次いで建設されました。

小木地区公民館・総合センターについては、小木行政サービスセンターの建替え新築に伴い、2017（平成 29）年に機能移転し複合化されています。両津文化会館については、建替え新築される両津支所、長寿命化改修されるアミューズメント佐渡へ機能移転するとともに、新両津病院の建設予定地となったことに伴い 2020 年度中に機能廃止し、2021 年度末までに解体することとなりました。

(2) 管理に関する基本的な考え方

会館等については、各施設の整備内容や稼働率、今後の利用見通しや市域の公平性を考慮し、適正量となるよう施設の再編を進めます。

8章 教育関連施設

(1) 現状や課題に関する基本認識

教育関連施設のうち幼稚園・小学校・中学校については、概ね耐震補強の実施が完了しており、施設が老朽化するなかでも安全な教育環境が確保されています。最も古い学校施設は1968（昭和43）年に整備された両津小学校（校舎2）で、1969（昭和44）年の加茂小学校（校舎1）、両津小学校（校舎1）、1970（昭和45）年の加茂小学校（校舎2）、1971（昭和46）年の両津小学校（校舎3）、1972（昭和47）年の佐和田中学校（校舎）と続きます。

その他教育関連施設では、学校給食センターが主となっており、1974（昭和49）年に整備された両津学校給食センターのほか、2001（平成13）年の佐和田学校給食センター、2014（平成26）年には相川学校給食センターが整備されています。

1988（昭和63）年に整備された畑野学校給食センター共同調理場については、提供食数の減少に伴い、2008（平成20）年に整備された国仲学校給食センターに機能統合し、2017（平成29）年に廃止・解体しています。

(2) 管理に関する基本的な考え方

小中学校の老朽化対策については、文部科学省が2015（平成27）年度に公表した「学校施設の長寿命化計画の策定の手引」や「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について」などに基づき、2018（平成30）年に策定予定の「学校施設長寿命化計画」に沿って計画的に進めていきます。

小中学校は、公共施設の中でも大規模な施設であり、修繕、更新にあたっては、学校統合や機能の複合化などにより多世代交流の促進や地域コミュニティの醸成などを図るほか、学校給食センターについては、学校再編と連動し、民間への委託も含め、効果的・効率的な公共施設の運営に努めます。

9 章 社会教育関連施設

(1) 現状や課題に関する基本認識

社会教育関連施設には、博物館や資料館、図書館などの施設が含まれています。

最も古い施設は、1956（昭和 31）年建設の相川郷土博物館（展示室・事務室等）で、1957（昭和 32）年の佐渡博物館、1966（昭和 41）年の相川郷土博物館（有田八郎記念館）などと続きます。

また、社会教育関連施設には、1905（明治 38）年に建設された明治記念堂（開導館）や 1920（大正 9）年の佐渡国小木民族博物館（本館）などの歴史的建造物も含まれます。

(2) 管理に関する基本的な考え方

博物館や資料館は、旧市町村時代にそれぞれ設けられた施設で地域の歴史や風土などを学ぶ施設として重要ですが、佐渡全体を俯瞰するために施設や機能の集約化を図ることも重要です。その際、図書館や展示施設、実習工房などについては、学校など教育関連施設の空き室や地域コミュニティ施設に機能を移すなど、集約化・複合化を進め、総量の適正化を図ります。

10 章 保健体育施設

(1) 現状や課題に関する基本認識

保健体育施設のうち、最も古い施設は、平スキー場の休憩舎・倉庫で 1961（昭和 36）年の建設です。その後、体育館の建設が始まり、1967（昭和 42）年に小木体育館、1971（昭和 46）年に真野体育館、1972（昭和 47）年に新穂体育館、1975（昭和 50）年に佐渡スポーツハウス、1976（昭和 51）年に赤泊体育館が建設されました。

体育施設の整備のピークは 1980 年代で、主なものに 1981（昭和 56）年に真野運動広場、1982（昭和 57）年に相川体育館、1989（平成元）年に両津総合体育館があります。その他、B&G 海洋センターが小木地域と羽茂地域に整備されたほか、佐渡スポーツハウスプール棟、佐渡市陸上競技場などが整備されました。また 2014（平成 26）年には佐渡市総合体育館「サンテラ佐渡スーパーアリーナ」が完成しました。

(2) 管理に関する基本的な考え方

体育館やグラウンドについては、旧市町村単位で整備が進められた結果、保有量が多い傾向がみられます。今後、小学校・中学校体育館も含め利用実態や施設の老朽化を把握し、施設の適正量と更新の在り方等を定め、計画的な管理に努めます。

11 章 消防施設

(1) 現状や課題に関する基本認識

消防施設の多くは消防団の機械器具置場に関するもので、いずれも小規模でその多くは比較的近年に整備を進めたものです。

消防庁舎では 1980（昭和 55）年整備の南佐渡消防署庁舎、1984（昭和 59）年整備の両津消防署庁舎が築 30 年を経過しています。

(2) 管理に関する基本的な考え方

消防施設は市民の安全を守る重要な役割を担っていることから、老朽化に対して大規模修繕や更新など適切な対応を取るほか、予防保全型管理を行うなど、計画的な小修繕を行うことによって施設の延命化を図る取り組みを行うなど、計画的な管理に努めます。

12章 その他の施設

(1) 現状や課題に関する基本認識

その他の施設については、トキ交流会館やサンライズ城が浜、赤泊自然休養村管理センターなど、市の資源を活かした交流、宿泊施設が多くを面積を占めています。

庁舎等については1960（昭和35）年に整備された両津支所が最も古く、耐用年数（50年）を超えており、更新時期を迎えたことに伴い2018（平成30）年に公民館機能を有した複合施設として建替え新築されました。

両津支所に次いで建築年の古い庁舎は、1967（昭和42）年の新穂行政サービスセンター、1973（昭和48）年の小木行政サービスセンター、1974（昭和49）年の畑野行政サービスセンターも更新時期を迎えており、新穂行政サービスセンター、小木行政サービスセンターについては、それぞれ公民館機能との複合施設として2017（平成29年）に建て替え新築され、畑野行政サービスセンターについては耐震化工事を実施しました。

(2) 管理に関する基本的な考え方

2004（平成16）年の市町村合併以降、行政サービスの効率化が進められてきましたが、旧庁舎は地域の中核的役割を担ってきたこともあり、施設の統廃合は進展していません。今後、施設の耐震化及び改築などの整備を行いますが、公平な住民サービスを図りつつ、施設機能の複合化などにより、庁舎等の余剰スペースの解消に努めます。